

家族支援専門看護師が大切にしていること

家族支援専門看護師の竹下です。家族支援専門看護師は、患者の回復を促進するために、家族のセルフケア機能を高め、患者を含む家族が主体的に問題解決できるよう支援します（日本看護協会ホームページより）。当院は高齢者が多く、家族の歴史は長いです。私は、家族が様々な困難を乗り越えた経験から、対処する力があると思っています。しかし、そのような中でも、経験したことのない出来事から、今までの家族の解決策では対処できない場合もあります。私は、家族が困難を抱えている時、これからも続いていく家族を意識し、患者さんを含む家族が、自ら解決策を考えられるよう関わっています。

現在、COVID-19の感染拡大から、面会制限により、入院患者さんと家族が分断されやすい環境にあります。突然患者さんの厳しい予後告知をされ、不安から様々な反応を示す家族が、面会制限により患者さんと十分話し合えず、治療方針の意思決定が困難など、家族の関わりで難渋する事例はスタッフからコンサルテーションを受けます。

目の前の家族にどのような支援が必要か、家族に関わるスタッフと共に考え、家族看護のやりがいや楽しさを感じてもらえるよう活動しています。



スタッフと共に、家族の支援について考えています

共に育とう 共に創ろう



第3章 『先輩が意識して看護していることを私も心掛けるようになりました』

4月に入職した看護師は、もうすぐ1年を迎えようとしています。7月にインタビューをしたフレッシュペアの2人と新人看護師（詳細は当院ホームページ「あしかみナーズVol.5」参照）に、共に歩んできた1年を振り返ってもらい、その中で、印象的な場面や一緒に成長できたと感じることを聞いてみました。

1年を振り返り、印象に残っている場面や言葉、ペアで成長できたと感じることはどのようなことでしたか？

新人看護師: 私が印象に残っている言葉は、4年目看護師さんの「患者さんが安全に過ごせること」です。受け持つ患者さんの処置が重なった時など、患者さんの安全を意識して優先順位を考えています。

4年目看護師: 私は、安全の視点に加えて、寝たきりの患者さんからみえる看護師の表情や雰囲気、話しやすさも大事にしたい。患者さんからは、看護師がどう見えるかを新人看護師さんと話し合っ、背中を向けないほうがいいねと話したこともあったよね。

新人看護師: はい。ベッドサイドでは、患者さんが見えるように自分の体の向きを考えたり、私も4年目看護師さんの言葉で心掛けるようになりました。

あと、中堅看護師さんからは、患者さんの救急対応など、経験が少ないことでも、その時に自分がどう動くか、予測しておくことを教えていただき、看護技術も含め、自分には何ができたらいいかを考えています。

中堅看護師: 夜勤は、看護師の人数が限られ、その中で、急変の対応をすることもあります。その中で、できることをお願いするよって話しています。私は、目の前の看護だけではなく、その先も考えてほしいので、新人看護師さんに、意図的に患者さんや家族のことを聞きますね。

新人看護師: 様々な場面でアドバイスをくださり、私が勉強していることも、3人で共有していただけるのがありがたくて。今後も、先輩から多く吸収できたらいいなと思っています。

4年目看護師: 私も新人看護師さんと話すことで、フレッシュな視点で考えることができ、一緒に成長できています。勤務ですれ違っても、見かければお互い声を掛け合ったり、こんなに話し合ったペアは初めてですね。

中堅看護師: 3人でのコミュニケーションは意識しています。患者さんを見ていくうえで一緒に成長していく仲間という意識を高くもってやってこれたので、とても充実した時間を過ごせたかなと思っています。



1年間、一緒に歩んできたフレッシュペアの2人と新人看護師

今回、フレッシュペアの2人と新人看護師にインタビューをしました。

交代勤務のため、毎日3人が顔を合わせる事が難しい中でも、コミュニケーションを意識し「一緒に成長していく仲間」として、お互いに大切にしている看護を伝え合い、先輩から後輩、そして、後輩から先輩に看護が繋がっていました。

当院が大切にしている『共育・共創』が、日常にあふれていることを3人の言葉で感じる事ができました。

2022年3月
インターンシップ開催予定
申し込みはこちらから→

